

はじめに

不確実性と競争により不安定な商業社会、消費社会からグローバル化と科学技術の進歩により変化が速い生涯学習社会へと時代は動いています。それによって、学校の機能、教師の役割が変わりました。教師は知識・技能を伝達する存在ではなく、生徒の成長をファシリテート(促進し、導く)する存在になる必要があります。つまり、ICT活用以前の問題で学習観・授業観を転換する必要があります。この転換ができない学校は、その存在理由が問われる時代になりました。

ですから**二中を「生徒が自分で決められる学校」にしていけます。**

二中3原則

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| ① 生徒に自己決定の場を与えること | Q&Q「どうする?」「どうしたい?」「何かしてほしいことある?」 |
| ② 生徒に自己存在感を与えること | 「生きてることに価値がある」 |
| ③ 共感的人間関係を育成すること | 「仲間を尊重する」「私とあなたは違うことが前提」 |

これからの時代を幸せに生きていくためには、「自分の人生を他人任せにしない」主体的な姿勢がとて大切になってきます。ですから第一に、**二中を「生徒が自分で決められる学校」にすることが重要**です。主体的に行動するためには自分で考え、選び、決定できる場が必要だからです。その際、「全て任せる(放任)」か「任せない(管理・制限)」か、という二項対立の問題ではなく、私たちの適切な指導(関与・伴走)のもとで生徒が決められる場面を用意し、成長を促していきます。

二中MVV

《二中ミッション(教育目標)》
こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」の育成

《二中ビジョン(学校経営目標)》4つの戦略

戦略1 学習指導要領の理念を教育活動に落とし込む

全ての活動を生徒が主体性を発揮できる場にする。そのために、極力指示を減らす。Q&Aではなく、Q&Qで対応し、「自分の考えを言語化する」ことを繰り返す。

戦略2 社会に開かれた教育課程に近づける

地域・保護者との結びつきを強くし、力を借りると共に総合的な学習の時間をコアに「課題解決型学習(Project Based Learning)」を展開し、キャリア教育(①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力)を推進する。

戦略3 多様性に向き合うセフィネット(安全網)を構築する

《安全安心な風土を醸成する》
 生徒に多様性に関する気付きを与えるとともに集団の中でお互いを尊重し合う態度や行動を育む。

校外(チャレンジ教室・しまだっ子等)とも連携をとり、サード・プレイス(家庭(第1の場)でも教室(第2の場)でもない第3の居心地の良い場所)を構築する。ICT活用環境も可能な限り整備する。

戦略4 well-being経営を推進する

～先生のHappyが子どもの笑顔をつくる～
 教員のWell-being(身体的、精神的、社会的に良好な状態)が生徒のそれには不可欠である。本当に必要か、効果はあってもマイナスや副作用はないか、別のやり方はないか等、現状を疑ってみる。
 教員がグレイティブに深く思考する時間がなくては、生徒の思考力や創造性が高まる教育活動にならない。

《二中コアバリュー》(ミッション・ビジョンよりも、より日常業務の中で理解しやすい具体的な価値)
「主体性」を高める 「多様性」を認め合う